

平成 30 年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会
各部会の開催報告

5 部会：子ども支援部会、暮らし支援部会、相談支援部会、就労支援部会、
権利擁護部会

■子ども支援部会

◆開催日

【第 1 回】平成 30 年 6 月 12 日（火）・6 月 20 日（水）

【第 2 回】平成 30 年 11 月 27 日（火）

【第 1 回】

◆メンバー 10 人

- ・児童通所事業所：放課後デイサービスじゃんぷ
- ・障害福祉サービス事業所：ライフサーブ・パーラミター
- ・障害者団体：重症心身障害児・者親の会、大垣市手をつなぐ親の会
- ・医療機関：大垣市民病院よろず相談
- ・部会委員：5 人

◆テーマ

「医療的ケア児支援に対する現状と課題について」

◆部会の内容

- ・「大垣市第 1 期障害児福祉計画」に基づき、医療的ケア児支援連携協議会の設置に向け、実際に医療的ケア児の支援に携わっている保護者、相談支援事業所、福祉サービス事業所、医療機関などから退院までの準備、退院後の生活における現状や課題について聞き取りを行い、今後の支援体制構築に向けた課題の整理を行なった。

◆主な意見や課題等

- ・退院後の在宅生活において家族を支える医療、福祉のサービスを的確に繋ぐ支援者（コーディネーター）が必要
- ・医療と福祉の情報共有を早めにする体制が必要
- ・福祉部門内での担当者間の情報共有が必要
- ・就園、就学に際しての支援体制づくりの課題の共有
- ・部会で協議した結果を医療的ケア児支援連携協議会に報告し、情報共有と行動連携に繋げる支援体制づくりに反映させていく

【第2回】

◆メンバー 11人

- ・医療機関：いかわクリニック
- ・相談機関：西濃圏域発達障がい者支援センター、西濃障がい者就業・生活支援センター
- ・教育機関：西濃教育事務所、西濃高等特別支援学校
- ・部会委員：6人

◆テーマ

「大垣市スマイルブックの『高校年齢シート』作成について」

◆部会の内容

- ・大垣市スマイルブックの「高校年齢シート」作成にあたり、発達支援グループが作成した様式案を提示。また新しいシートは、本人が記入することにより、本人の自己理解と自立の促し、及び保護者の関わり方の振り返りの促しをコンセプトとしていることを説明し、意見や助言をいただいた。

◆主な意見や課題等

- ・高校生シートの本人が記入することにより、本人の自己理解と自立につなげるコンセプトはそれで良い。さらに、そのシートを見て支援者側もアプローチの方法が分かるような視点が入ったものとなるよう考えて欲しい。
- ・効果的な支援方法なども記載されていると、就労などその先の支援にも参考になるのではないかと。本人にも支援者にもメリットに感じられるものを作成していくことが大切。
- ・本人が記入して落ち込んでしまうようなものではない。質問の表現に工夫が必要。
- ・いただいた意見を参考にし、本人や支援者がより有効に活用できるものを作成していく。
- ・完成した高校年齢シートは今後、中学3年生のスマイルブックを持つ生徒に配布。
- ・自己理解や支援の繋ぎなど有効に活用していけるよう、シートの記入に関する相談も随時行うなど支援体制や活用方法も整えていく。

■暮らし支援部会

◆開催日

【第1回】平成30年10月31日（水）

【第2回】平成31年1月31日（木）

【第1回】

◆メンバー 21人

障害福祉サービス事業所：大垣市柿の木荘 ほか8事業所

相談支援事業所：障がい者支援センターけあ・わーくす大垣 ほか6事業所

岐阜県障がい者相談支援特別アドバイザー

部会委員：2人

◆テーマ

「地域生活支援拠点等について考えよう」



◆部会の内容

- ・市より地域生活支援拠点等の整備について、目的や必要とされる機能、好事例などを説明した。
- ・市内事業所（施設入所事業所・相談支援事業所・短期入所事業所・共同生活援助事業所）による意見発表を行った。
- ・「既存の事業所としてできる地域生活支援拠点等の役割」をテーマにしたグループワークを行い、特別アドバイザーからの助言をいただいた。

◆主な意見や課題等

- ・地域移行のなか、居住支援のため、様々な事業所がチームを組み、地域全体で支える提供体制づくりが求められている。
- ・相談支援担当は緊急時対応に苦慮している。社会資源が少なく、1事業所のみでは解決できないので、地域での連携が重要である。
- ・グループワークでは、各事業所から地域生活支援拠点等の整備に向けた具体的な内容に話が及んでいた。今回を第1回として、緊急性の高い切実な問題として、皆が我が事として捉え、さらに議論を進め、地域貢献に努めていく必要がある。

【第2回】

◆メンバー 25人

障害者団体：身体障害者福祉協会大垣支部 ほかに10団体

障害福祉サービス事業所：大垣市柿の木荘 ほかに9事業所

部会委員：4名

◆テーマ

「災害時の障がい者支援について」

◆部会の内容

- ・NPO 法人防災支援ネットワーク伊藤三枝子氏より「災害に対する心構えや備えについて」を講演いただいた。
- ・「避難所で考慮してほしいこと」、「当事者、事業所が普段から備えたほうがいいこと」、「コミュニケーションボードについて」をテーマにした個人ワーク、グループワークを行った。

◆主な意見や課題等

- ・自閉症や知的障がいの方は障がいの特性からパーテーション等での別空間が必要であることなど、市民に障がいについての理解を深めてもらい、福祉避難所が実際に機能するよう、福祉避難所の意義等周知していく必要がある。
- ・避難所において、他の避難者に障がい者であることがわかるよう、災害時用バンダナを充分活用すべきであり、そのためにもさらなる周知が必要である。
- ・地域で行われる避難訓練へ日頃から参加するなど、地域との連携が重要である。
- ・コミュニケーションボードについては、特に自閉症や知的障がいの方は、イラストと文字がつかないため、事前に練習等が必要である。
- ・今回出た障がい当事者が不安に思われている点などを今後の防災支援に関する施策に生かしていかなければならない。

■相談支援部会

◆開催日

【第1回】平成30年6月21日（木）

【第2回】平成30年10月4日（木）

◆テーマ

相談支援のスキルアップ「事例検討～ひきこもりの実態と支援の在り方について～」

【第1回】

◆メンバー 39人

相談支援事業所：相談支援事業所かがやき ほか13事業所

医療機関：大垣病院 ほか3病院

県機関：岐阜県精神保健福祉センター、西濃保健所

高齢機関：地域包括支援センター（市・社会福祉協議会・中川・お勝山）

市機関：保健センター

ひきこもり支援団体：NPO法人仕事工房ポポロ ほか2団体

部会委員：3人

◆部会の内容

- ・岐阜県精神保健福祉センターよりひきこもりの概念と「ひきこもり地域支援センター」に

についての概要や取り組みの説明をした。

- ・ひきこもりの支援団体である「NPO法人仕事工房ポポロ」「西濃地域ひきこもる子どもを持つ家族会」「りんご倶楽部」より団体の概要と活動内容について紹介をした。
- ・ひきこもりの事例検討として、「ひきこもりの支援 ～相談されたのが、あなただったら」をテーマに、家族以外の人と関わりを持てた事例を基に、グループワークを行い、ひきこもりの人への支援について協議を行った。

◆主な意見や課題等

- ・ひきこもり地域支援センターやひきこもり支援団体の概要や取り組み、ひきこもりの支援の現状等について学び、知識を高めた。
- ・ひきこもりの相談が多くなっている中で、相談先や支援団体を知ることができ、今後の支援につなぐことができる。

【第2回】

◆テーマ

「事例検討 ～精神障がい者の地域移行・地域定着について～」



◆メンバー 21人

相談支援事業所：大垣市柿の木荘 ほかに12事業所

相談機関：大垣市障がい者就労支援センター ほかに2事業所

医療機関：養南病院、不破ノ関病院

行政機関：保健所、保健センター

部会委員：2人

◆部会の内容

- ・「精神障がい者の地域移行・定着」をテーマとし事例検討を行った。

- ・保健所や市が関わり精神科病院の入院に至った方で地域に移行していく事例をもとに、「①本人のできることの強み」「②本人ができないこと、課題」を整理し、課題に対する支援や方法、地域で暮らしていくために必要な支援についてグループに分かれて検討した。

◆主な意見や課題等

- ・今回は検討時間を長くし、本人の強みや課題を明確にし、課題に対して支援内容を検討したことで、相談支援は本人のニーズが中心にあることを再認識するとともに、課題についての支援や解決方法が様々あることを学んだ。
- ・同じように困難ケースの事例について検討したい、支援にあたる際に参考にしたいという意見が多くみられた。
- ・精神障がい者からの相談が増えるなか、困難さを抱える精神障がい者が地域で生活していくためにどのような支援や仕組みが必要か事例を通じて検討していきたい。

就労支援部会

◆開催日

【第1回】平成30年8月2日（木）

【第2回】平成30年12月17日（月）

【第1回】

◆メンバー 事業所・事務局：23人 一般参加者：56人

就労支援事業所：ベジファーム大垣 ほか15事業所

大垣市障がい者就労支援センター

部会委員：2人

◆テーマ

「福祉的就労について知ろう ～事業所紹介フェア～」



◆部会の内容

- ・「福祉的就労について知ろう」をテーマに西濃障がい者就業・生活支援センター所長の山下美智恵氏による講演を行った。
- ・大垣市内の就労移行支援事業所、就労継続支援A型・B型事業所の支援内容や仕事内容を紹介するため、事業所ごとのブースを設置し、全3回の説明時間に区切り、ポスターセッション形式で利用を検討している市民や関係者等に紹介を行った。

◆主な意見や課題等

- ・講演では、具体的な事業所の違いや利用を検討する際に気を付けなければならないことなどを知れたので参考になったという意見があった。
- ・事業所説明においては、参加者が3事業所に渡って話を聞くことができたため、事業所としても説明すべきことに気付いたり、利用を検討している当事者との接見の場として有効に活用できていた。
- ・ただし、事業所紹介フェアという場を設けているにも関わらず、見学者が増えない、マッチングに至らずその後につながっていないという意見もある。
- ・次回の方向性として、今までのようなブース形式とは異なるプレゼン方式なども視野に入れつつ、参加者がより事業所について知ることができる環境作りに取り組みたい。

【第2回】

◆メンバー 21人

就労支援事業所：かわなみ作業所 ほか10事業所

障害者団体：難病生きがいサポートセンター、身体障害者福祉協会大垣支部

大垣市就労支援センター

部会委員：4人

◆テーマ

「工賃向上に対してできること ～報酬単価等の見直しを受けて～」

◆部会の内容

- ・岐阜市にある岐阜県社会福祉事業団 清流園を講師として招き、工賃向上に向けた利用者に対する対応方法や役務業務の獲得方法、仕事の割り振り方、自主製品についてなど様々な点から各事業所で取り組めることについてアドバイスをもらった。
- ・各事業所の現状や困っていること、工賃向上との関係についてグループワークを行った。

◆主な意見や課題等

- ・清流園は、多機能型の事業所であったため、様々な話が聞けたのでよかった反面、県の事業団であるため規模が異なり、大垣市内の事業所に当てはめ考えるのは少々困難なものであったとも意見はあった。出勤が少ない利用者さんが足を引っ張っているという考え方もあるが、一方で誰でも得手不得手があるので、お互いに助けあっていけるような作業を組

み、それぞれに割り振ることができるように考えなければいけないのだとも感じたとの意見もあった。

- ・グループワークを通して、作業内容は異なれど悩みは同じなのだと認識し、共感しあえた。今後はグループワークなどで共通の事例などをテーマに話し合いができたらと考えている。

■権利擁護部会

◆開催日

【第1回】平成30年7月26日（木）

【第2回】平成31年1月29日（火）

【第1回】

◆メンバー 46人

障害福祉サービス事業所：大垣市柿の木荘 ほか14事業所

児童発達支援事業所：すてっぷ ほか7事業所

相談支援事業所：相談支援事業所すこやか ほか10事業所

部会委員：2人

◆テーマ

障害者虐待防止研修会

「障がい特性から虐待防止と合理的配慮を考えよう」

◆部会の内容

- ・大垣市障害者虐待防止センターにおける通報件数等（平成29年度：通報4件・虐待認定3件、平成30年度：通報3件・うち虐待認定1件(H30.7.26現在)）を報告した。
- ・岐阜県権利擁護センターより障がい者虐待防止のためとして、障害者虐待防止法の概要説明、岐阜県障がい者差別解消支援センターより障害者差別解消法の概要説明を受けたのち、事例検討を行った。

◆主な意見や課題等

- ・虐待防止の近道は、虐待の芽を摘むことであり、そのためには支援者がグレーゾーンは虐待であるという認識を持つことが大切。自分自身の対応に問題意識、チームでの共通認識、話し合う土壌が必要であることを学んだ。
- ・事例検討では、事例を通じ意見交換をし、グループや全体発表において、多様な視点や意見を聞くことができ、新たな気づきや改善方法を学んだ。問題解決に向けては、1事業所だけではなく、関係機関を含めて検討することが問題解決への糸口へとつながると認識を持った。
- ・虐待の事実確認は、慎重さのなかにスピード感を持った関係機関との連携が重要となる。

- ・研修会で学んだことを事業所へ持ち帰り、職場での啓蒙につなげ、支援者ひとり一人が虐待防止に向け取り組み、障害者の権利擁護を図っていく。

【第2回】

◆メンバー 185人

地域代表：民生児童委員・福祉推進委員・西濃地区社会福祉協議会 101人
 高齢関係：地域包括支援センター・介護サービス事業所 67人
 障害関係：相談機関・障害福祉サービス事業所・障害福祉団体 15人
 部会委員：2人

◆テーマ

成年後見制度研修会

知ろう！役立てよう！成年後見制度！



◆部会の内容

- ・成年後見制度利用促進に向け、地域連携ネットワークの一員となってくる地域の民生児童委員や福祉サービス事業所、相談機関を対象に成年後見制度研修会を実施した。
- ・はじめに、市より「成年後見制度の現状と利用促進」、大垣市社会福祉協議会より「西濃地域成年後見支援センター」について説明した。その後、リーガルサポート岐阜県支部長横井岳志氏より「成年後見制度の概要」、ぎふ権利擁護センター代表理事 岡川毅志氏より「事例をとおして成年後見制度について知ろう」をテーマに講義いただいた。

◆主な意見や課題等

- ・大垣市の成年後見制度利用者の現状を伝え、利用促進を進めていくことが必要であることを周知した。そのためには、利用者がメリットを実感できる制度にしていかなければならないこと、地域連携ネットワークづくりが課題であることを伝えた。

- ・西濃地域成年後見支援センターの業務や相談内容について説明し、気軽に相談できる場所があるということを周知した。
- ・講師より成年後見制度の概要についての説明があった。申し立ての理由が、預貯金の管理が最も多く、不動産の処分や、施設等の契約など身上監護が次いで多いという説明があった。
- ・成年後見制度を必要とする事例を通して、本人の意思を尊重することが大切であること、しかし正解があるわけではない。関係者や地域の協力が不可欠である、という説明があった。
- ・今後、高齢介護課、社会福祉協議会と連携し、成年後見制度利用促進計画の策定に向けて協議していく。